



宮城の秋の風物詩「芋煮」を 仮設住宅の方々と楽しむ

町中の木々が色付き始めた11月、東北の秋の風物詩といえば「芋煮」です。仙台市内の広瀬川の川辺では、皆で大きな鍋を囲んで芋煮を楽しむ光景が見られます。石巻でも芋煮は老若男女問わず大人気です。

11月9日(土)、全国のYMCA職員14名が研修で石巻を訪れた際、市内の仮設団地で芋煮の炊き出し交流会を行いました。こちらの団地では、YMCA歌の広場やお茶っこ交流会などを継続して行ってきましたが、集会所に集まるのは中高齢の女性が多く、このような集まりに顔を出せない世代の住民へのアプローチが課題でした。今回の芋煮炊き出し交流会は、幅広い層の方々が参加できるように配慮して企画されました。

当日は朝8時30分から準備を始めました。早い時間にもかかわらず、団地の婦人会、自治会を中心に10人ほどの住民の方々がお手伝いをしてくださいました。今回のYMCA研修生は全員男性だったので、婦人会の方々が野菜の切り方を教える様子が印象的でした。研修生の中には、コンニャクを手でちぎらず包丁で切っていたら、住民に怒られてしまった方も…。



当日は天気がよく気候にも恵まれたので、集会所の外で気持ちよく芋煮を召し上がる方々も。

この日は芋煮を200人分用意し、2つの団地の住民の方々に十分にお配りすることができました。

普段この団地であまり見かけない子どもたちやその保護者、また隣の団地の方々と交流の時間を持つことができました。以前他の行事で訪問させて頂いた時に、「集会所に集まるのは同じメンバーばかりで、今更その輪に入りにくい」と仰っていた方にも、この日は「今日は久しぶりに集会所に入ることができた。ありがとうございます」と仰っていただきました。

集会所の中では、芋煮を食べながらお楽しみレクリエーションを行いました。全国のYMCA職員がそれぞれの得意な事を披露して、住民の方々に笑顔をプレゼントしました。ギターでキャンプソングを熱唱したり、作業療法の専門性を活かして面白く楽しく健康体操を指導してくれたり。住民の方々は「YMCAのプログラムは毎回色々な人がやってきてくれるから楽しい。この団地にいながら、日本中・世界中の方々と出会えるなんて本当に素敵。これからも是非来てね」と仰います。仮設住宅での生活はまだまだ続く見込みです。YMCAのボランティアと住民の交わりが、今後も住民の皆さんの癒しになればと願い、支援活動を続けていきたいと思っております。



煮込みと味付けは全国のYMCAスタッフ男性陣が担当。宮城の味噌風味の芋煮にチャレンジ。



芋煮の準備、団地の婦人会の方々が野菜の切り方を教えてくれました。

東日本大震災復興支援募金

- ・ゆうちょ銀行(郵便振替)
振替口座:00120-7-714728
名義:公益財団法人 東京 YMCA
- ・銀行振り込み
みずほ銀行 神田支店 普通 1677931
三井住友銀行 神田支店 普通 7656469
名義:公益財団法人 東京 YMCA
※「東日本大震災」とお書き添えてください。